

ファッションから時代を読み解く

「ファッション歳時記」でおなじみの中野香織さんを講師に迎えたトークショーが、このほど富山市中、央通りのシエラスペース「マチノス」で開かれました。



中野さんのお話を耳を傾ける参加者

ファッションを通して時代の先を見ることが出来ます。世界で話題のトレンドをご紹介します。

ここ3年以上、トレンドカラーはピンクです。アカデミー賞の授賞式では、男性を含む出席者の多くがピンクの衣装でした。ピンクの家具や家電も続々と登場しています。ピンクは女の子の

色というイメージが定着したのは、1950年代のアメリカです。もともとヨーロッパでは、血の赤に近いピンクが男の子、貞節のブルーが女の子の色でした。ピンクは優しく華やかな印象がありますが、男の子が優しく華やかではいけないといった時代の偏見により、色のイメージが変えられたのかもしれませんが。アメリカの刑務所では、受刑者のボクサーパンツ、カーテン、壁などにピンクを導入したことで暴力性の抑制につながっています。

次に、「脱ハイヒール」の動きです。最近のスニーカーブームで、ドレスにスニーカーがトレンド。「なぜ女性だけが苦痛を感じながらもマナーとしてパンプスを履かなければならないのか」と女性が団結して声を上げ、日本では苦痛からの解放を呼びかけ、「#KUROO」運動が広がりを見せています。

文化的盗用

注意が必要なトレンドに、文化的盗用があります。アメリカの歌手アリアナ・グランデが、曲のタイトル



話題のトレンドについて語る中野さん

「Seven Rings」にちなみ「七輪」とタトゥーを入れ、非難されました。差別意識が低くフラットに文化を交換してきた日本人には理解しがたいかもしれませんが、アメリカでは、白人が黒人やアジア人の文化を借用する行為は、盗用とみなされ批判の対象になります。グローバルに活躍したいと考える場合に敏感であるべき問題で、新しい物が作りにくい時代になったと感じます。

ところで、街に根ざすファッション産業といえば、高岡では錫がアートとしても知られ、アクセサリーも作られています。以前、街とファッションの関係を取材するため、水や空気がきれいで精密機械産業に適したスイスを訪れました。手作業で製造する時計産業は、1970年代に日本の安いクォーツが登場し一時低迷しましたが、時計メーカーWCの伝説の時計師が永久カレンダーのしくみを考案したことで、「人間はこんなに素晴らしい複雑な時計が作れるのに、安く手軽なも

寛容な資本主義

グッチ、バレンシアガなどを傘下にもつ、パリの最先端ラグジュアリーブランド「ケリング」の本社は、17世紀に建てられた病院をリノベーションしたものです。ケリングの会長は、「ブランド価値を高めるため、文化として建物を保存しアートを購入するなど、寛容な資本主義が必要だ」とインタビューに答えてくれました。資本をもつ側、企業に必要なのは、アート、文化保護、サステナビリティ（持続可能性）です。富山でも保護すべき文化があるのではないのでしょうか。アートや文化を保護し地域の人々に見てもらおうことが、地域貢献にもつながるのだと思います。